

# 「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」 地域学校協働活動の取組事例

## 子どもたちの未来を創る「学びの部屋」実行委員会(岩手県 沿岸地域)

### 取組の概要や経緯

被災等により十分な学びの場を失った子どもたちが夢を描き、そのことに向かって学ぶことを大切に、安心できる学びの環境を備えていくことを目指して、放課後や週末等の児童・生徒の学習支援を実施。



### 内容

自学自習の支援を基本とし、学習支援相談員(地元の教員OBや塾講師等)が「分からない」ことに寄り添うことで、生徒の学習上のつまずき解消や学力・学習意欲向上を図っている。

平成29年度は陸前高田市5会場、大船渡市5会場、釜石市4会場、宮古市1会場、住田町1会場、全16会場で開催(2017年12月現在)している。各市町の教育委員会や学校または自治会長や施設長との連携により、各地域の復興状況に合わせて開催を検討して進めている。

また、学習支援相談員や学生サポーター、地域関係者を対象に研修会を実施し、各会場の支援の情報交換や地域のニーズの共有をし、支援の方向性の検討を行っている。



### ポイント

- ①各市町の教育委員会や地域との連携を図りニーズなどの情報共有を図っている。
- ②ロールモデルとなる大学生と交流する機会を設けている。
- ③学習と心のケアに一体的に取り組み、場を活かしながら一人ひとりに寄り添っている。

### 成果

・学習支援相談員の寄り添いにより、集中時間を継続的に確保する生徒や苦手教科に挑戦する生徒、質問をして積極的に学ぶ生徒が増加した。

・地域開催への移行に伴い、小中高生の縦割りの学びの部屋が実現した。小学生が英検に挑戦した。

・不登校気味の生徒の居場所となり、学習へ向き合い始め、他者とコミュニケーションをとる機会を提供できた。

・学びの部屋卒業生が学生サポーターとして参加した。

会場数	実施日数	参加生徒数	支援員数	ボランティア
	累計	累計	累計	累計
16会場	820日	4016名	1427名	113名

(2017年11月現在)

### 今後の方向性

・不登校や生活困窮、発達障がい等の課題を抱える生徒・保護者に対する支援の必要性や支援方法を検討する。

・復興期の学習支援と持続可能な過疎地の学習支援の融合について模索する。

・震災が原因となって生じる著しい少子化、学力低下、大学進学率・専門教育履修率の向上、地域活性化への被災した若者の貢献事例創出などを見据えた展開に取り組む。